

青年海外協力隊ガーナ帰国隊員の代表としまして、ガーナ奨学金及び感謝状授与式に当たりご挨拶させていただきます。

まず大使閣下のご列席のもと挙行されますこの授与式に参加できますことは、私にとってこの上ない誇りでございます。また、現在ガーナで活動中の隊員及び帰国した隊員一同にとって、このような格調高き式を催していただけることは何物にも勝る喜びであるばかりでなく、これからの活動を勇気づけられるものでもあります。

ご存じのようにJESガーナ奨学金は、4年ほど前の97年にガーナで活動していた私も理数科教師の有志が中心となって作った奨学金制度です。当時、ガーナ国内の二十数カ所の学校で活動していた私達は、優秀でしかも品行方正でありながら授業料を払えず学校を去らざるを得ない何人かの生徒達を見てきました。ガーナの未来のために活動している私どもにとりまして、その未来を創る人材が学校を去っていくことは極めて悲しいことであり、また私どもの活動そのものにも影を落とすものでした。大きな声では申し上げられませんが、隊員の中には自分の活動費からそうした生徒の学費を肩代わりしている者もいました。何とか公に、しかも継続的にそうした生徒に手を差し伸べることができないか、こうした思いが浮かんでくるのはとても自然なことでした。

奨学金のアイデアは何も当時活動していた私どもだけのものではありません。以前から理数科隊員の中では論じられてきたものです。しかしマンパワーとしての活動が期待され2年という任期のある私達の立場を考えたとき、その継続性や道義性など、制度の設立のためには多くの克服しなければならない問題がありました。ケニアやボツワナ・タンザニアなど東アフリカや南アフリカの隊員と連絡を取り、そこでやっている奨学金制度を参考にしながらその形を創り上げるまでには、多くの議論が必要でした。私達の後続く隊員が支持してくれるだろうか、日本で上手く募金活動ができるのだろうか、制度の運営・維持そのものが心配でした。

しかしその後嬉しいことに、志を同じにする良き仲間を得ることができました。ガーナでは浜田隊員を中心に理数科教師がよくまとまり、制度の改善や拡大・整備に努力をしてくれました。また日本では帰国隊員が広報活動に努め、学校や家族会など多くの理解者に支えられて着実に募金活動を繰り広げてくれました。青年海外協力協会の定期的な援助も大きな心の支えとなってきました。その結果、これまでに延べ80人を超える生徒に奨学金を支給することができました。

さてこの奨学金の優れた点は、集められた募金は全て、実際に奨学金を受ける本人に手渡すことができるという点にあります。今回授与される都立城南高校の寄付金は、隊員を通して全額、直接現地の高校生に贈られことになります。未来を築く同じ世代の高校生同士の支えあいです。まさに人から人への協力であり、人と人との心の触れ合いであります。

時間切れ・・・・まだ日本語の原稿です！ ごめん！